

執筆者紹介

千 二斗ちしん いどう（一九九九年度本学客員教授、韓国圓光

大学校名誉教授）

山内ゆかやまうち（本学大学院博士課程前期課程九八年度修了）

藤原麻弥子ふじわらまやこ（本学大学院博士課程前期課程九八年度修了）

吳 艶いづえん（本学大学院博士課程後期課程）

森澤夕子もりざわゆうこ（本学九五年度卒業生）

河 京植かきょうし（本学大学院博士課程後期課程）

編集後記

文部省小学校令施行規則が改められ、かな字体の統一、棒引き字音がなづかひが実施され、坪内雄蔵編の『尋常國語讀本』、高等國語讀本』が刊行されたのが一九〇〇年であった。この年、井上円了『漢字不可廢論』の発表、『言語學雜誌』の創刊があり、松下大三郎・渡辺文雄『國歌大觀』の刊行もあった。『高野聖』、『思ひ出の記』、『はつ姿』などが発表され、『明星』が創刊されている。

二〇〇〇年に入って、この百年の日本の歩みをさまざまな角度から振り返り、新しい世紀を切り拓くよすがとすべきであろう。一月に出された「英語を第二公用語に」という提言についても、諸方面から意見が出されているが、これほど重大で真剣な議論と検討を要する問題はないであろう。

本号には、文学関係五篇と言語関係一篇、合計六篇の論文を載せることができた。寄稿者のうち半数の三氏は外国籍の人であり、期せずして時代を感じさせる号となった。

本号について、多方面からご意見が寄せられることを期待したい。

（玉村文郎）

同志社国文学 第五十二号

二〇〇〇年三月二十五日 印刷

二〇〇〇年三月二〇日 発行

編集 玉村文郎  
田中励儀

発行 同志社大学国文学会

(代表) 向井芳樹

京都市上京区今出川通烏丸東入  
振替 〇一〇九〇一―二七三七

印刷所 共同印刷工業株式会社  
京都市右京区西院久田町